

人と防災未来センター 防災未来館 「河川洪水ハザードマップ」

知ることがまずは防災の第一歩



財団法人阪神・淡路大震災記念協会 人と防災未来センター
企画運営部運営第2課 西岡強課長

「災害を完全に防ぐことはできません。しかし確かな情報を得ることで減災することはできます。知ることが防災の第一歩となるのです。このハザードマップは来場される学生から大人の方まで分かりやすく学ぶツールとして好評を得ています。目で見るだけでなく自分で触ってインタラクティブに情報を得ることができるのがこのシステムの利点だと思います」



河川と津波の洪水危険度を視覚的・直感的に訴えるハザードマップ 住んでいる街の防災情報を簡単操作で入手！

1995年1月17日午前5時46分。6,400を超える尊い命が一瞬にして奪われました。「阪神・淡路大震災」です。大震災を教訓に、「記憶」を未来につなぐ目的から2002年4月に設立されたのが「人と防災未来センター」です。人と防災未来センターは震災の実物資料と詳細データを展示した「防災未来館」と、命の尊さ大切さを伝える「ひと未来館」の2棟から成ります。一日に平均1,700人、年間では約54万人が来場するほどです。

この「防災未来館」の展示施設内に訪れる多くの来場者に防災を分かりやすく伝えるツールとして導入されたのがキャドセンターの「NEXTRAX™」です。コンテンツは2004年の台風で大きな被害が出た兵庫県内の円山川、加古川、市川など6河川の流域を対象に河川がはらんした場合の浸水危険度を表現した「河川洪水ハザードマップ」と、東南海、南海の大規模な地震による津波にフォーカスをあて、兵庫、大阪、高知、和歌山4県の津波浸水エリアを表現した「津波浸水ハザードマップ」の2つが展示されています。いずれも高解像度の衛星写真（IKONOS）を使い、ハザードマップとの組み合わせにより浸水危険度を地図上に分かりやすく色分け表示しています。

導入ポイント

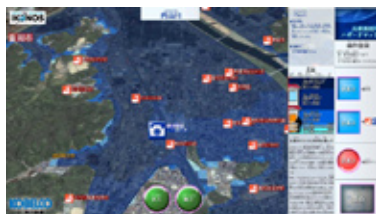
- ◎来場者自ら触って防災情報をインタラクティブに得ることができる
- ◎視覚的に訴えるハザードマップ（河川洪水・津波）がほしかった
- ◎分かりやすく学ぶツールとして有効な展示演出ができる

提供ソリューション

リッチコンテンツ

+

NEXTRAX™



●河川洪水ハザードマップ



●津波浸水ハザードマップ

●事業主	財団法人阪神・淡路大震災記念協会 人と防災未来センター
●クライアント	株式会社NHKプロモーション
●導入場所	〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 (TEL.078-262-5050)
●導入年月	2004年9月／2005年11月
●ソリューション	河川と津波の洪水を視覚的に訴えるハザードマップとして制作・展示
●ハードウェア	NEXTRAX™ 50型×2台

●お問い合わせは 株式会社キャドセンター <http://www.cadcenter.co.jp/>

■本社

〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-21
TEL. 03-5842-7300(代表)

■大阪事務所

〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場2-10-30
TEL. 06-6281-9911